

# 政務活動費出金票

出金日	平成 30 年 8 月 29 日
項目	1 <u>調査研究費</u> ②研修費      ③広報費 ④広聴費      ⑥要請・陳情活動費      ⑦会議費 ⑦資料作成費      ⑧資料購入費      ⑨人件費 ⑩事務所費
摘要	根室市 北方領土 ぶらり網籠 防災訓練視察
金額	88,560 円

支出内訳

富山空港 ↔ 中標別空港

## 領 収 証

JTB



No 06700159504-02-79

2018 年 10 月 18 日

領 収 書

越川 隆文 様  
下記の金額正に領収いたしました

¥ 88,560 \*

但し 8月29日 航空券代金として

ご入金内訳      2018/08/14 クレジット      ¥88,560

出納責任者

富山店

取扱者

070-441-1311

領収箇所名、領収者印の無いもの及び金額訂正のものは無効です。

⑧3200023

E 098603

お客様用

本紙に収まらないときは、適宜別紙を作成のこと

氏 名 越川隆文

承	会派会長印	経理責任者印
認		

## 内 訳 書

発行日：2018年10月18日  
 (株) JTB  
 富山店  
 富山店  
 <観光庁長官登録旅行業 第64号>  
 〒930-0003  
 富山県富山市桜町1-1-36富山地鉄ビル1階  
 富山店 TEL:076-441-1311 FAX:076-441-1351  
 定休日：水祝  
 営業時間：10:00~18:00 (17:30受付終了)  
<http://jtb.co.jp/shop/toyama/>  
 担当者 XXXXXXXXXX

越川 隆文 様

8月29日 ご出発

このたびは弊社をご利用いただきありがとうございます。  
 ご旅行代金等を下記のとおりご請求いたします。

お申込人数 1名様 (大 1人 小 0人)

種別	単価	人数/数量	金額	備考
航空代金(大人)	12,690	1	12,690	
航空代金(大人)	36,990	1	36,990	
航空代金(大人)	27,890	1	27,890	
航空代金(大人)	8,290	1	8,290	
ホテル手配料	540	1	540	
航空券手配料	1,080	2	2,160	
合計			88,560	
お申込お預かり金			-88,560	
差引ご請求額			0	




政 務 活 動 費 出 金 票


出 金 日	平成 30 年 8 月 29 日
項 目	① 調査研究費      ② 研修費      ③ 広報費 ④ 広聴費      ⑤ 要請・陳情活動費      ⑥ 会議費 ⑦ 資料作成費      ⑧ 資料購入費      ⑨ 人件費 ⑩ 事務所費
摘 用	根室市、北川級土、ふるさと納税 防災訓練視察
金 額	1,880 円
支出内訳	中標別空港から根室市バス代
領 収 書	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>領 収 書</p> <p>2018年 8月29日(水) 14:17 001号機</p> <p>¥1,880-</p> <p>金額を領収いたしました 根室交通株式会社</p> </div>

本紙に収まらないときは、適宜別紙を作成のこと



氏 名 越川隆文

承	会派会長印	経理責任者印
認		

政務活動費出金票

出金日	平成30年9月2日																						
項目	① 調査研究費 ④ 広聴費 ⑦ 資料作成費 ⑩ 事務所費	② 研修費 ⑤ 要請・陳情活動費 ⑧ 資料購入費	③ 広報費 ⑥ 会議費 ⑨ 人件費																				
摘要	根室市 北の領工 ぶらと 網走 防災訓練視察																						
金額	1,880 円																						
支出内訳	根室市 から 中標別空港 バス代																						
領収書	No _____ 領収証		収入印紙																				
	越川 隆文 殿																						
	<table border="1"> <tr> <td>金額</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>¥</td> <td>1</td> <td>8</td> <td>8</td> <td>0</td> <td></td> </tr> </table>			金額														¥	1	8	8	0	
金額																							
				¥	1	8	8	0															
	但し 乗車券代金として																						
	上記の通り領収致しました																						
	平成30年 9月 2日																						
	根室市光和町2丁目10番地2 根室交通株式会社 TEL 0153-24-2202		扱者印 																				

本紙に収まらないときは、適宜別紙を作成のこと

承	会派会長印	経理責任者印
認		

氏名 越川隆文

# 政 務 活 動 費 出 金 票

出 金 日	平成 30 年 8 月 29 日
項 目	① 調査研究費      ② 研修費      ③ 広報費 ④ 広聴費      ⑤ 要請・陳情活動費      ⑥ 会議費 ⑦ 資料作成費      ⑧ 資料購入費      ⑨ 人件費 ⑩ 事務所費
摘 用	根室市北条領工ふるさと納税 防災訓練 視察
金 額	19,440 円
支出内訳	ビジネスインときわ 平成30年8月29,30,31日分 1泊 6,480円

領 収 証 越 川 隆 文 様 No. \_\_\_\_\_

金額									
		¥	1	9	4	4	0		

但 宿代として  
 30年 8月 29日 上記正に領収いたしました

内 訳  
 税抜金額 \_\_\_\_\_  
 消費税額(%) \_\_\_\_\_

領 収  
 根室市清隆町3丁目3番地

GR1417

本紙に収まらないときは、適宜別紙を作成のこと

承	会派会長印	経理責任者印
認		

氏 名 越川隆文

政務活動費旅費計算書

会派名 越川隆文



金額 111,760 円

(1人あたり) 111,760 円)

用務	根室市北方領土心3町と網走・防災訓練視察				
旅行先	根室市				
旅行期間	平成30年8月29日~平成30年9月1日(3泊4日)				
種別	区間	乗車料金	急行料金	特別車料金	合計
Airfare 鉄道賃	自富山空港駅 至 中標別空港駅 往復	円	円	円	88,560 円
	自 駅 至 駅	円	円	円	円
	自 駅 至 駅	円	円	円	円
	自 駅 至 駅	円	円	円	円
	自 駅 至 駅	円	円	円	円
車賃	区間	借り上げ料金	燃料費	高速料金	合計
	自中標別空港 至 根室市 往復	円	円	円	3,760 円
宿泊料	1泊6480円		3泊分		19,440円
その他(駐車料金等)	(内訳)				円
備考					
合計	111,760円				

旅行議員氏名 越川隆文

\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

承認印	
会派会長	経理責任者
	

魚 議 第 号  
平成 30 年 8 月 日

根室市議会  
議長 本田 俊治 様

魚津市議会  
議長 石倉 彰

行政視察について（依頼）

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、この度、行政視察のお願いをいたしましたところ、ご多忙にもかかわらずご承諾いただきまして、誠にありがとうございました。

下記日程により訪問いたしたいと存じますので、ご多忙中恐縮ですが、種々ご教示賜りますようお願い申し上げます。

記

- 1 視察日時  
平成 30 年 8 月 30 日（木）～9 月 1 日（土）
- 2 視察人員  
魚津市議会議員 越川 隆文
- 3 視察事項  
北方領土、ふるさと納税、防災

事務担当

富山県魚津市議会事務局 石崎

TEL (0765) 23-1041

FAX (0765) 23-1056

根室市ふるさと納税事業調査研究  
場所：根室市役所  
平成30年8月30日

根室市議会議長 本田俊治氏の挨拶

根室市  
人口昭和41年の49896人がピーク  
現在26000人  
一般会計170億円  
市税30億円  
交付税62億円

ふるさと納税の寄付の推移

平成20年度では9215千円でその後1千万円前後で推移し、平成26年度では3260千円と低迷したが、平成27年度に一気にブレイク。いきなり13億円近くに激増した。

この要因としては、

- 1、返礼品の拡充
- 2、ふるさと納税ポータルサイト「ふるさとチョイス」により、全国的なPRを行い、クレジット決済を導入したこと。

特に年末年始の挨拶時期に納税実績が増加する。

事業者数を平成28年6月で53社、返礼品数を300品目に大幅拡大と同時に、根室市ふるさと応援基金を設立して、寄付金の使い道を明確に寄付者に示した。結果的に平成27年度の実績は金額ベースで前年比約380倍。件数で、約960倍になった。

2017年寄付金額39億7千万円  
寄付件数24万2千件  
2008年には1200万円  
2014年には300万円  
ふるさとチョイスから急増した。

2016年から17年でトップ20のうち4割の自治体が入り替わる  
昨年トップは都城市で73億円  
今年は泉佐野市で135億円

リピーターを確保する施策として

寄付受入れ実績と内容について詳細に公表  
活用事業ごとに事業内容・事業費・活用学・寄付者の声担当者からのコメント  
年度初めには、当該年度の活用予定事業について事前に公表  
寄付金の活用方法について市民からの意見聴取



根室市ふるさと納税事業調査研究

場所：根室市役所

平成30年8月30日

ふるさと納税を原資とした財源対策の見通しを公表

2017年度の基金残高26.8億円

総合計画に反映し、7つの基金を創設そのた4つの既存基金への充当

2018年2月には京王プラザホテル新宿でふるさと納税者2000名を招待

結果としてリピート率が10.8%から21%に向上

ふるさと納税を通じた関係人口も5.6万人～16.6万人～24.2万人への推移

### **考察： 魚津市のふるさと納税額をもっと伸ばそう！**

昨年の私の議会質問で明らかになったことは、魚津市のふるさと納税（寄付）額は300万円の逆ザヤであるということだ。つまり、魚津市外から魚津市にふるさと納税する人よりも、魚津市の人魚津市の外の自治体にふるさと納税する人の金額が約300万円も多かったということだ。しかし、この300万円は魚津市の財政にとってマイナスとなるのだが、地方交付税措置で減った分はちゃんと国から穴埋めが来るとのこと。

しかし、それで安堵している場合ではないのが、魚津市の財政事情。地方自治体の限られた権限の中で、少しでも税収を上げる方法として、ふるさと納税制度が創出されたはずである。根室市のふるさと納税額の2017年度実績が約40億円。

- 1、ふるさと納税寄付金の使い道を明確にして、寄付への安心感やインセンティブになる工夫をしていること。事業予算を明らかにしてクラウドファンディング的な募集の仕方をしていること。
- 2、ターゲットを首都圏に絞って、ふるさと納税をしてくれた人々に対して東京で感謝会を開催し、根室市に対する理解を深めてもらってリピーターをつかんでいること。
- 3、返礼品の品目を300品目以上に充実して、豊富な品ぞろえを準備していること。
- 4、ふるさと納税寄付金を基金に充当して税収をしっかりと別勘定で管理していること。市の財源として事業原資としての位置づけを内外に積極的に打ち出していること。

全国屈指の水揚げ量を誇る根室市だからこそという見方もできるが、その中でも様々な工夫をしていることは大いに参考になる。この視察調査の結果を参考に魚津市議会でよりふるさと納税に積極的に取り組む提案をさせていただいた。ちなみに平成31年度予算額は昨年度の倍増に近いものになっていることは、第一歩として評価したい。まだまだ魚津市にはふるさと納税の伸びしろがあるはずである。財政状況が苦しい場合には、節約・削減だけではなく、積極的に稼ぐという意識も持っていないか。

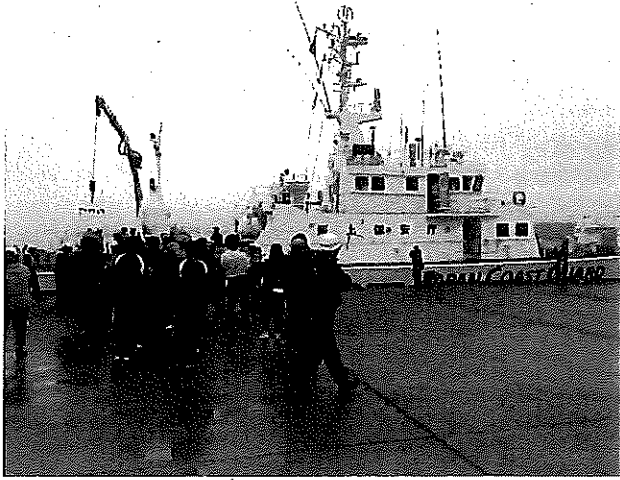
大地震を想定した根室市総合防災訓練が5日午後1時から、花咲港岸壁後背地で行われた。

根室半島南東沖を震源とするマグニチュード8を超える巨大地震が発生し、根室市で震度6弱を観測。北海道太平洋沿岸東部に大津波警報が発令されたと想定して実施された。

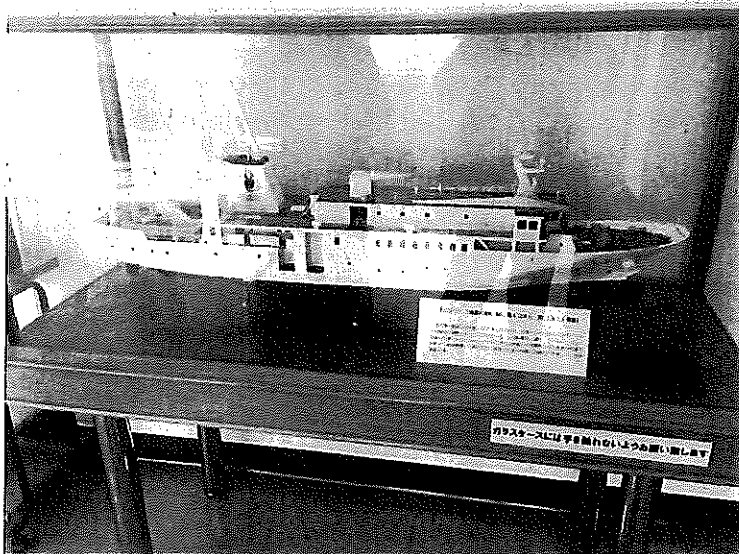
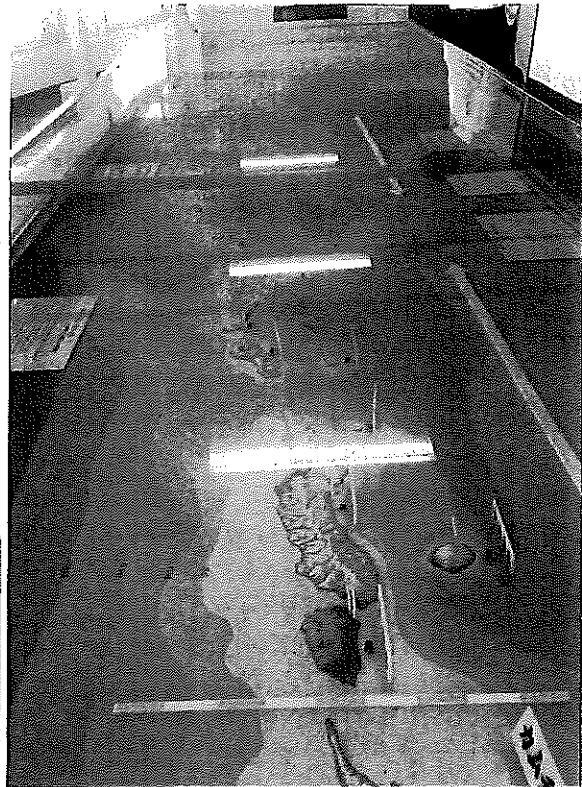
警察犬が出動し、倒壊家屋からけが人を救出する訓練や車両火災消火訓練、航空自衛隊と海保のヘリコプターが出動し、海面漂流者をつり上げ病院に搬送する海面漂流者捜索・救助訓練などが行われ、特に自衛隊の防災訓練参加は海上自衛隊の艦艇も参加し、陸海空の自衛隊が連携した訓練があった。

## **考察： 防災訓練の際に自衛隊との連携を深めよう**

ロシアと国境を接する根室には自衛隊の基地もあることなどから、防災の際にも自衛隊との連携はとりやすい条件がそろっていることもあるが、北陸地方でももう少し自衛隊との連携をとった防災訓練ができないものだろうか。水害地震津波などの規模の大きな災害が発生した場合には地元の力だけではいかんともしがたい場面が出てくる。今後ぜひ調査研究していく必要があると考える。



北方領土問題対策協会 北方館視察  
平成30年8月31日



根室市納沙布岬にある独立行政法人北方領土問題対策協会の北方館を訪問し、副館長の清水幸一氏から館内の説明をいただいた。

北方領土問題は日本の領土問題であり、戦後70年近く経っても、未だに未解決の課題として日本政府は捉えている。わたしが、この北方領土に関心を持ったのは、はるか昔の高校生時代。当時の青年会議所の北方領土訪問団募集に論文を提出して参加させていただく頃から始

北方領土問題対策協会 北方館視察  
平成30年8月31日

まった。当時はまだ新潟からフェリーで小樽まで入って、そこからまた鉄道で丸一日ほどかけて根室に降り立ったのを覚えている。

納沙布岬から見た北方領土はあいにくの天候で、なんとか貝殻島までは見えたがあとは濃霧の中。それでもあの目と鼻の先がロシアであることをまざまざと見せつけられた思い出はその後の北方領土問題に関わっていく大きなきっかけとなった。

清水副館長から直接北方領土の歴史を元住民の目から見た説明をいただくことができた。清水副館長もルーツは富山県とのことで、俄然親近感がますのであった。魚津市からも多くの引揚者があり、7、8年ほど前は70名ほどの引揚者がご存命だったと記憶しているが、現在はより少なくなっているだろう。一刻も早くの領土返還が国民の願いであるが、現状は引き続き大変厳しい。

特に北方領土の現在の島民の状況については、ロシアは開発行為を継続しており、島民の本土からの移住に関しても、本土以上のインセンティブを与えて、4島の人口は増加しつつある。すでに北朝鮮や中国、韓国などの企業との経済協力が行われており、安倍総理が約束した新しい経済協力関係については、未知数であるとの認識だ。

さらに、北方4島では軍事拠点の強化も引き続き行われており、少なくとも現地の状況を見るとロシア側が北方領土を返還しようという兆候は見られないとのことであった。

また、過去にロシアとの経済協力関係では、サハリンにおける天然ガスエネルギー開発の事業が、「環境問題」という一方的な言いがかりで、契約更改させられほぼ事業を横取りされた苦い体験があるが、そんな経験もなかったかのような、今回の日ロ経済協力になんの見返りもなく調印してしまったことなども領土返還運動の当事者としては忸怩たる思いをもたれているようであった。

マスコミや政府の報道と実際の現場の状況が大きく乖離していることなどがわかり、今後の北方領土返還運動の在り方について考えさせられる視察であった。

考察： 北方領土引揚者から見たロシアという国家に対する不信感の背景を現場の実体験から伺うことができた。また国境を接する海域でのロシア側の容赦のない漁船の拿捕などがあり、まさに生活をかけたやり取りがある。富山県、特に新川地域からも北方領土からの引揚者が多かったために今でも青年会議所同市の交流が続いている。黒部市とも交流が盛んで、友好提携都市を結んでおられる。魚津市も北洋漁業などの歴史を図書館などで顕彰することが必用ではないだろうか。